

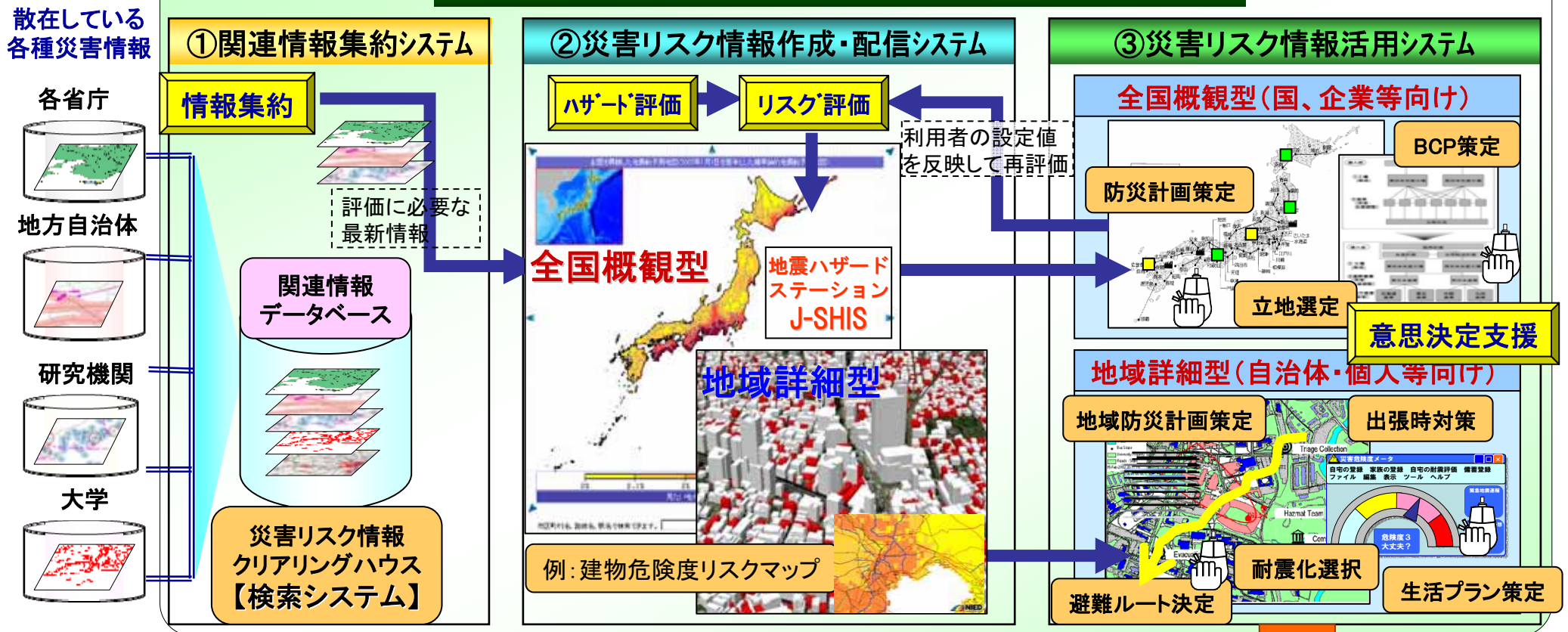
# 災害リスク情報プラットフォーム

平成21年度予算額：1,136百万円  
平成20年度予算額：1,136百万円  
(平成20年度より)

## 背景

- 地震、津波、火山、気象災害、土砂災害、雪氷災害等の自然災害の多発地域に位置する我が国において、それらに関するハザード及びリスク情報を集約、発信、活用していくためのプラットフォームの構築し、地域の防災活動や地域住民の防災行動等に繋げることが極めて重要。
- 長期戦略指針「イノベーション25」において、早急に開始すべき社会還元加速プロジェクトの一つとして、「災害情報通信システム」が掲げられており、本プロジェクトはその中核に位置付けられるもの。

## 災害リスク情報プラットフォームの開発



## 主な活用例

自治体による防災計画策定、地震保険料率の算定、企業による事業継続計画（BCP）策定、立地選定、住宅の耐震化計画策定

国、自治体  
企業、個人

# MPLレーダを用いた土砂・風水害の発生予測に関する研究

平成22年度概算要求額: 150百万円  
 (施設整備費補助金) 250百万円  
 平成21年度予算額 : 100百万円

## 背景

- 日本は、世界有数の多雨地域であり、これまで、台風、梅雨などによる気象災害を数多く経験
- 最近、**局所的な豪雨が**発生し、人的被害が生じるなど、**新たな気象災害として喫緊の課題**
- これまでに、**高分解能気象レーダ(MPLレーダ)**を用いた気象観測、**短時間降雨予測に関する研究開発**を進めるとともに、**土砂災害や都市水害危険情報に関する研究開発**を進め、危険情報を試験的に提供

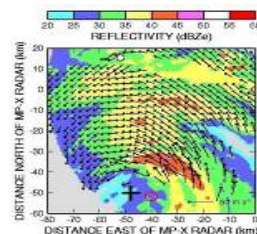


## 平成22年度の実施概要

### 豪雨・強風監視、降水量予測

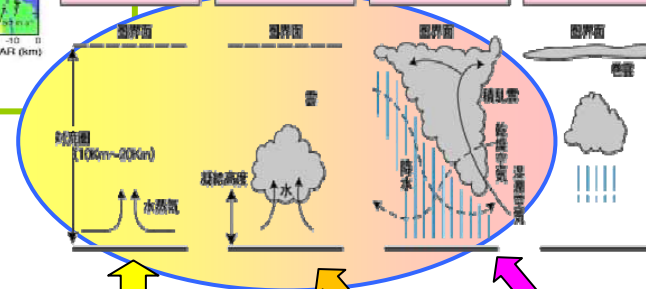
- 次世代気象レーダ(MPLレーダ)ネットワークの構築に関する研究開発
- MPLレーダによる局所的な豪雨・強風の観測に関する研究開発
- **高感度の雲レーダにより積乱雲の初期発達段階を観測し、ゲリラ豪雨予測技術を開発 (50百万円)**
- 局所的な豪雨を含む1時間先までの降雨予測技術に関する研究開発

ゲリラ豪雨の早期検知・予測を実現するため、雲・降雨発生前の気流分布を把握するドップラーライダーを整備  
**(施設整備費補助金 250百万円)**



### 降雨の発達プロセス

- 1.プレストームステージ (水蒸気の収束)
- 2.雲ステージ (雲の形成・発達)
- 3.降水ステージ (降水の形成・発達)
- 4.ポストストームステージ (降水・雲の消滅)



MPLレーダ短時間予測降雨量を活用して

### 土砂災害発生予測・浸水被害危険度予測

- 浸水被害危険度予測の高度化
- MP雨量情報を用いた表層崩壊危険度予測研究
- 降雨実験施設を用いた崩壊時刻の早期予測研究
- 崩壊土砂の運動予測研究(シミュレーション研究)



豪雨による土砂災害、浸水被害の高精度な予測の実現を目指す



高精度気象観測、降雨、危険度予測による気象災害対策への貢献